

事業番号	事務事業名	特別天然記念物緊急調査事業	所管課名	生涯学習課	令和 2 年度課長名	黒瀬 豊
06469	政策名	3 創造豊かな教育・文化の里づくり	係名	文化係	担当者・シート作成者	日下 隆春
	施策名	35 文化財と伝統行事の継承	根拠法令等	文化財保護法		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	オオサンショウウオ飼育施設の整備、捕獲調査及び一時飼育・隔離飼育(委託業務)、保護対策委員会の開催等	平成29年度に岡山県教育委員会の調査により、奥津地域の吉井川にチュウゴクオオサンショウウオ及びその交雑種が生息している事が明らかになったため、外来種・交雑種の隔離を目的として、30年度より国・県の補助により、町で実施することとなった。

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア オオサンショウウオ	ア オオサンショウウオの数	頭	見込 実績					
イ チュウゴクオオサンショウウオ及びその交雑種	イ 外来種・交雑種の数	頭	見込 実績					
ウ	ウ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア 捕獲して調査を行う	ア 捕獲した数	頭	目標 実績 達成率	50 38 76.0%	50 55 110.0%	50 52 104.0%	50	50 104.0%
イ 一時飼育を行う	イ 隔離飼育した個体の数	頭	目標 実績 達成率	5 2 40.0%	5 15 300.0%	15 8 53.3%	8	8 100.0%
ウ 隔離して飼育する	ウ 飼育施設の数	箇所	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	1 100.0%

③主な活動内容	⑥活動指標	単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア 捕獲調査及び飼育の委託	ア 捕獲調査及び飼育の委託団体数	団体	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2 100.0%
イ 飼育施設の整備	イ 整備した飼育施設の数	箇所	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	1 100.0%
ウ 保護対策委員会の開催	ウ 会議の開催数	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 0 0.0%	2	2 0.0%

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 10		項 06		目 04		大事業 中事業					事業番号			
	一般会計		教育費		社会教育費		文化財保護費		03	05	特別天然記念物緊急調査事業						
予 算 (千円)	30年度 実績	1年度 実績	2年度 実績	3年度 見込	4年度 見込	前年比	決 算 (千円)	30年度 実績	1年度 実績	2年度 実績	3年度 見込	4年度 見込	前年比				
国庫支出金	4,031	3,877	3,702	4,000	4,000	-175	国庫支出金	3,873	3,468	3,515	4,000	4,000	47				
県支出金	1,343	1,292	1,234	1,000	1,000	-58	県支出金	1,291	1,156	1,171	1,000	1,000	15				
町 債							町 債										
その他特財							その他特財										
一般財源	3,188	2,585	2,468	3,000	3,000	-117	一般財源	2,702	2,496	2,344	3,000	3,000	-152				
合計	8,562	7,754	7,404	8,000	8,000	-350	合計(A)	7,866	7,120	7,030	8,000	8,000	-90				
財源名称	社会教育費国庫補助金 国宝重要文化財等保存整備費補助金						従事正職員人数	3	3	3	3	3					
	社会教育費県補助金 文化財保護等補助金						延べ業務事務時間	350	350	320	340	350	-30				
							人件費計(千円)(B)	1,184	1,225	1,070	1,139	1,173	-155				
最終予算額		7,404 千円		予算執行率		94.9%		トータルコスト(A+B)		9,050	8,345	8,100	9,139	9,173	-245		
主 な 支出事業内容 (予 算)	委託料				5,643 千円				主 な 支出事業内容 (決 算)	委託料				5,643 千円			
	使用料及び賃借料				940 千円					使用料及び賃借料				939 千円			
	費用弁償				246 千円					費用弁償				159 千円			
	報償費				137 千円					報償費				129 千円			

事業番号	06469	事務事業名	特別天然記念物緊急調査事業	所管課名	生涯学習課
------	-------	-------	---------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
29年度に交雑種が発見されるまでは、まったく予想もしていなかった事業なので、大きな負担となっている。
②この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
平成30年度から開始したばかりの事業で、内容において改革・改善は行っていない。
③この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
交雑種が捕獲されないようになるまで、最低5年は続けていかなければならないと文化庁からの意見がある。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	特別天然記念物を後世に伝えるための事業であるため、結びついている。
	②町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	オオサンショウウオは国の特別天然記念物であるため、許可なく触ったり移動させることもできない。また、個人所有のものでもないため、行政が行うべき事業である。	
③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	チュウゴクオオサンショウウオ及びその交雑種の排除が目的で、それ以外の目的はないため妥当である。	
有効性 評価	④成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	施設の規模、調査回数等を考慮しても、当分は現在のやり方で進めていくことが妥当。
	⑤廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	交雑種を排除しないまま本事業を廃止すれば、吉井川上流部において交雑種がさらに増えていくことになり、在来種の生態に大きな影響を与えることになるため、外来種・交雑種が確認できなくなるまでは廃止・休止はすべきではない。	
⑥方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	隔離飼育する交雑種の譲渡先が増えれば、飼育に係る負担は軽減できる。	
効率性 評価	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	事業費の削減を優先すれば、捕獲調査・飼育などを直接職員が行わなければならないとなり、業務量は増大するため、これ以上の削減は難しい。
⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	調査・飼育等は業者委託にしており、事務作業や協議、計画などが主であるため、削減余地はない。	
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	国特別天然記念物を扱う事業であるため、受益者が偏ることはない。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果		②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	30年度から開始し、他の自治体でも例のない事業であるため、模索しながら進めてきたが、当面はこの内容で実施することが妥当だと思っている。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 次年度以降この事業を進めていくことで新たな改善点や他に効率的な方法などがあれば見直しを検討したい。																							
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
保護対策委員の意見をどこまで取り入れて実施していくかということ。事業目的は交雑種を排除できれば良いのであるが、研究者で構成される保護対策委員は、これを機会にオオサンショウウオの生態や生息状況などのデータを収集し、研究資料の蓄積も視野に入れている。そのあたりをどこまで町が行わなければならないのかということ、今後の事業の進め方も大きく変わっていくと思う。																									